

都立高校入試への英語スピーキングテストの導入の延期・見直しを求める請願

東京都教育委員会はベネッセ・コーポレーションと協定を結び、令和5年度都立高校入試において英語スピーキングテストを導入しようとしています。今年11月末に全公立中学3年生を対象に、イヤホンから流れる問題に、一人ひとりが答え、音声録音されるテストが行われ、フィリピンの組織により採点され、1月中旬に結果が返却されて、都立高校入試総合得点に20点満点で加算がされます。

公平な採点と合否判断への不合理な影響についての疑問

採点はベネッセが提携したフィリピンの組織に委託し、45日間で採点することになっています。8万人もの生徒についてのスピーキングの微妙な採点基準のすり合わせは難しく、この期間で一切のずれのない公平な採点ができるとは思えません。また開示請求をしても得点の具体的な理由は明らかにされないしくみになっています。採点は100点満点で行われ、それが4点差ずつの6段階20点満点での換算点となって加点されます。結果、例えば100点と65点の35点の差でも、65点と64点の1点の差でも、換算点の差は4点ということになります。1点の差で合否を判定するしくみの入試にはふさわしくありません。

授業と英語教育への弊害、家庭の経済格差が得点の格差へ

「発音など間違えても気にせずに話そう」と指導をしているのに、「入試だけは別」となると、普段の授業から発音・文法に気をつかうことになります。生徒が委縮し、コミュニケーションに消極的になっては、元も子もありません。また特にこの2年間は英語の授業ではコロナ禍で話す活動も十分に行われておらず、生徒に大きな不安を与えます。そんな中では、塾・オンライン講座などで経験を積んだ方が有利になる可能性が大いにあるテストだけに、家庭の経済格差がテストの得点の格差に結びつく可能性があります。

個人情報管理、利益相反についての疑問、現場の混乱の不安

公立中3年生すべての名前、顔写真とそれにひも付いたテスト結果が一私企業に委ねられることに疑問を感じる生徒や保護者もいます。匿名化される方法をなぜ追求しないのでしょうか。またベネッセは各種英語スピーキング講座を運営しています。テスト実施・採点業者がそのような事業を行っていることは利益相反と言えないでしょうか。その他、受検校決定スケジュールの一層の過密化による生徒・教師の負担増、不受検者の方が有利になりうるしくみなど、学校現場がますます混乱する可能性が高く心配です。

請願事項

1. 都において、都立高校入試への中学校英語スピーキングテスト結果の導入の延期・見直しをしていただきたい。

お名前	ご住所 (「同上」「#」は使わないでください)	(印)
	都 県	
	府 道	
	都 県	
	府 道	
	都 県	
	府 道	
	都 県	
	府 道	

*ご記入いただいた個人情報は、この署名目的以外には使用しません／「ご本人による自署」または「記名・押印」をお願いします

呼びかけ団体

都立高校入試へのスピーキング
テスト導入の中止を求める会

取り扱い団体

【署名送付先:〒102-0084 千代田区二番町12-1

エデュカス東京内 東京教育連絡会 5/16までに】

*ご質問・ご意見はこちらへ: stoptokyospeakingtests@gmail.com